



昂立教育集团 组编

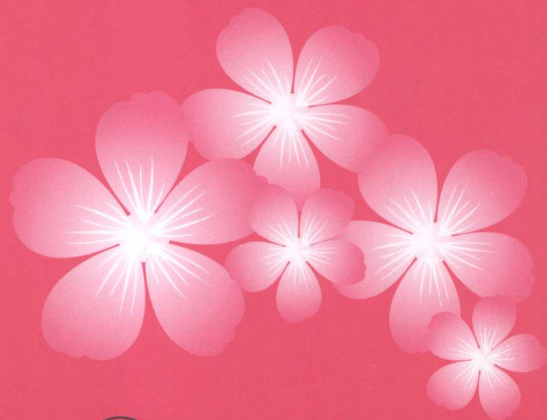
昂立日本语系列

N1 新日本语能力考试 读解攻略

总策划 王炳仁

本册主编 赵莹波

副主编 黄族华



上海交通大学出版社
SHANGHAI JIAO TONG UNIVERSITY PRESS

昂立教育集团 组编

新日本语能力考试 N1 读解攻略

总 策 划 王炳仁

本册主编 赵莹波

副 主 编 黄族华

上海交通大学出版社

内 容 提 要

本书是在日语能力考试形式发生变化的背景下全新编撰的,针对最新的 N1 读解要求,采用最新素材,文章涉及文学、科普、报道等各个领域。由“基础训练:句子攻略”和“实战练习”两大部分构成。“实战练习”部分共二十六课,每课分别由短篇、中篇、长篇三篇文章组成。每课后面还有诸如“数独”、“智力游戏”、“绕口令”等有趣的日语相关知识。每册后面还附有“读解模拟题”和“2010 年读解全真题”以及参考答案。

图书在版编目(CIP)数据

新日本语能力考试 N1 读解攻略/赵莹波主编. —上海:
上海交通大学出版社,2012

(昂立日本语系列)

ISBN 978-7-313-07622-9

I. ①新… II. ①赵… III. ①日语-水平考试-自学
参考资料 IV. ①H360.41

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2011)第 158720 号

新日本语能力考试 N1 读解攻略

赵莹波 主编

上海交通大学出版社出版发行

(上海市番禺路 951 号 邮政编码 200030)

电话:64071208 出版人:韩建民

浙江云广印业有限公司印刷 全国新华书店经销

开本:787mm×1092mm 1/16 印张:16 字数:381 千字

2012 年 4 月第 1 版 2012 年 4 月第 1 次印刷

印数:1~3 030

ISBN 978-7-313-07622-9/H 定价:32.00 元

版权所有 侵权必究

告读者:如发现本书有印装质量问题请与印刷厂质量科联系
联系电话:0573-86577317

昂立日本语系列丛书编委会名单

顾问

高胜长 昂立教育集团教育研究院 院长
李先瑞 解放军外国语学院 教授
廖怀宝 昂立教育集团 教研专家
李延彬 昂立教育集团日语上海总校 校长
严钦佩 昂立教育集团 江苏运营总监

主编 姚新红 单利君

编委 (排名不分先后)

品爱春 徐克强 吴天江 赵伟雄 王 磊
赵莹波 黄族华 董 冰 李 倩 魏 华
姜 晖 吕玉元 姚 婷 胡天星 孙 娟
王 俊 李嘉琪
雨河 良树 翠尾 夕子 松泽 知明 木村 亮太
高尾 真 奥田 聪

前 言



本书是在日语能力考试形式发生变化的背景下全新编撰的,针对最新的 N1 的读解要求采用了最新素材,文章涉及文学、科普、报道等各个领域。

本册分别由“基础训练:句子攻略”和“实战练习”两大部分构成。“实战练习”部分共二十六课,每课分别由短篇、中篇、长篇三篇文章组成。

在第一部分——“基础训练:句子攻略”(第一课到第七课)里,每一课开始都有一个小专题,通过对历年读解文章的解析,每次解决一个应试问题,并针对 N1 最新出现的信息检索的题目进行专门解析。

在“第二部分——实战练习”(第一课至二十六课)里,主要通过大量的练习,以达到能熟练地读解长句的程度,在这一部分,每篇文章的后面也同样都有点评、难度系数、重点句以及重点句的汉语译文,以供大家参考。

另外,每课后面还有诸如“数独”、“智力游戏”、“绕口令”等有趣的日语相关知识。每册后面还附有“模拟题”和“2010 年读解全真题”以及参考答案。

在全书的编撰过程中一直得到姚新红老师、张淑芸老师的热情指导,在此表示衷心感谢。单利君老师、张银杰老师在编写中做了大量的工作并提出了宝贵的建议,也一并表示感谢。

感谢河南理工大学外语学院的李红老师和郑州大学西亚斯国际学院的张志华老师、邹燕老师、尚果老师在本书的编写过程中付出的辛勤劳动。还要感谢上海立达职业技术学院的叶亭玉老师、上海市东辉职业技术学校的王蓓华老师,以及李明、王燕桦、夏蒙、唐赟、陈艳、胡艳、刘仁秀、苗森等日语专家。

最后还要感谢上海大学日语系的学生:裘佳晶、蒋皞琛、吴嘉佳、王拓、赵丹丹、钱辰等同学。

本书在编写过程中由于时间仓促,水平有限,希望各位老师和同学们多提宝贵意见。

编 者

2011 年 10 月

目 录



第一部分 基础训练:句子攻略	1
第一课 难点攻略:扑朔迷离的指示代词	1
第二课 难点攻略:环环相扣的长定语	5
第三课 难点攻略:常使人陷入被动的“被动态”	11
第四课 难点攻略:因果关系复杂的“句与句”	15
第五课 难点攻略:盯紧文章头和尾,找出作者的观点	21
第六课 难点攻略:接续词、关键词、标题填空	26
第七课 难点攻略:信息检索,逐一对比,求同去异	31
第二部分 实战练习	38
第一课 世界から姿消す日本人	38
第二课 流行語大賞	46
第三课 新春の伝統行事	53
第四课 月に水は存在するか	63
第五课 改正育児休業法 イクメンを誇れる職場	70
第六课 安全性の確認重視したい(新型ワクチン)	78
第七课 脂肪吸引の女性死亡	87
第八课 地デジ混乱回避 一層の周知徹底が不可欠だ	94
第九课 働けど生活保護に及ばぬ最低賃金	102
第十课 “夫婦別姓”改正案、来年国会提出へ～法相	109
第十一课 空港では慢性的な容量不足が問題	116
第十二课 エコカー支援 補助金打ち切りは時期尚早だ	123
第十三课 公設派遣村	129
第十四课 気候変動に関する事実	136
第十五课 口蹄疫終息へ 再発防止に教訓を生かそう	143
第十六课 一面の花畑が広がる伊吹山を探訪	150
第十七课 北海道	157
第十八课 普天間先送り一現実的な選択ではあるが	166
第十九课 大阪 2 児遺棄一虐待防止に一步踏み込め	174
第二十课 強まるコミュニケーション動機	180
第二十一课 時差ぼけ	185
第二十二课 沈黙	193
第二十三课 欧州連合	197
第二十四课 文化心理学入門——子どもと教育	205
第二十五课 グラフ (1)	212
第二十六课 グラフ (2)	217



N1 読解模擬	222
2010 年 7 月日本語能力試験 N1 読解	235
附录	244
正文练习答案	244
N1 読解模擬正解	246
2010 年 7 月日本語能力試験 N1 読解正解	247

第一部分 基础训练：句子攻略

第一课 难点攻略：扑朔迷离的指示代词

在日语句子中有一个现象要注意，那就是“指示代词”的用法，那些句中的“指示代词”到底指的是什么？是人？是物？还是时间？所谓的“指示代词”即：“こ、そ、あ、ど”系列词。又可细化为：“これ、それ、あれ、どれ”、“この、その、あの、どの”等。作者为了避免重复，常常用“指示代词”代替刚才已经说过的人或事，或者将要说的人或事。

“こ、そ、あ、ど”系列的这些“指示代词”看似很渺小，没有词尾等形式的变化。但是，这些“渺小的”词常常代表千言万语，代表说过的话或者将要说的话，以及“人”和“事”。可以说是指点前后，扑朔迷离。一般来说“こ”是指刚提到的“人和事”、将要说的“人和事”以及表示主观的看法；“そ”是指刚提到过的“人和事”以及客观看法；“あ”是指双方大家都知道的“人和事”；“ど”是指未知的“人和事”。

所以我们如果能准确地把握住“指示代词”的内涵，对理解文章中的长句子将会大有益处。下面我们分析几个句子。

例① この週末は桜が満開だ、東京(台東区)の上野公園でも多くの花見客でにぎわっている。上野公園によると、ここ数日は一日 10 万人以上が訪れていて、今日はそれ以上の来客が見込まれるという。

其中“この週末”“ここ数日”这两处的指代指的是时间，而“それ以上”的“それ”指的是前文提到的人或事情等，即刚才提到的 10 万人。

例② …彼は咳き込んで早口に言った。「えびがにはね、するめのおいが好きなんだよ。だって、ぼく、もうせんに田舎ではそう①やってたんだもの。」

太郎の明るい薄茶色の瞳には、はっきりそれ②とわかる抗議の表情があった。ぼくは鍵がはまってかちんと音を立てるのを聞いたような気がした。

これ③は新発見であった。大田夫人からもぼくは太郎が田舎にいたことがあるなどとはひと言も教えられていなかった。大田夫人が後妻だということを聞いても、ずっとぼくは太郎が都会育ちだと思い込んでいたのだ。確かに荒蕪地はアスファルトで固められているが、ずっと遠い暗がりには草と水があったのだ。ここ④から掘り起こしておこうとぼくは思った。ただ、今まで伏せられていたこの事実⑤にはどこか秘密のおいがあった。今の太田夫人が田舎にいたとはちょっと考えられないことだった。ぼくは床にあぐらを組みなおすと、もっぱら話題をえびがにに集中して太郎といろいろ話し合った。

(開高健 「裸の王様」により)

其中①“そう”：指刚才提到的事“えびがにはね、するめのおいが好きなんだよ”。

②“それ”：指他(太郎)自己明白“えびがにはね、するめのおい”。





③“これ”:指刚才说的事“太郎がもうせんに田舎ではそうやってたんだもの”。

④“ここ”:指刚才提到的那件事“太郎が田舎にいたことがある”,开始挖掘内幕。

⑤“この事実”:指刚才提到的“太郎が田舎にいたことがある”这件事。

通过以上两例我们可以明白,“指示代词”越多文章的难度就越大,所以准确地把握“指示代词”的实质,对文章的理解和细节的掌握有极大的帮助。

我们的攻略原则:“瞻前顾后,去伪存真”,答案就在身边。

例③ 秋に入ると学校では、読書週間という奇妙な週がやってくる。普段は図書館に足を踏み入れもしない子どもたちが、みんな指定の図書を探して、嫌々やってくるのを僕は不思議に眺めていた。読みたくない本を読んで感想文を書け、と先生から指令がくだるのだ。

僕は所謂アタマのいい子だった。子どものしがちな無茶なことはせず、大人の命令に逆らわない従順な(注1)児童だった。教室の壁には誰が何冊本を読んだか、という営業マン(注2)のようなグラフが作成され、能力を競っていたように思う。馬鹿馬鹿しいと嗤っていると白羽の矢が僕に刺さった(注3)。

「彼は本を読むから成績がいいんです!」

先生は僕を象徴にして読書を推進しようとしている。それは大きな間違いだ。僕の成績がよかったのは普段真面目に授業を聞いているからだし、きちんと家で勉強していたからだ。他の小学生はのびのびと(注4)育っていて、誰も勉強などしないから、差が出るのは当然のことだった。

(注1) 従順な:指示に素直に従い行動する様子

(注2) 営業マン:営業を担当する社員

(注3) 白羽の矢が刺さる:多くの人の中から特に選ばれる。普通「白羽の矢が立つ」と言う。

(注4) のびのびと:自由に

問 「それ」とは何か。

1. 読書週間という名のもとに、子どもたちに無理に多くの本を読ませようとする事
2. どれだけたくさん本が読めるか、営業マンのようなグラフを使って子どもたちに競争させること
3. 先生の話当真に聞いて家でもきちんと勉強しているから、筆者の成績がいいこと
4. 本を読むから成績がいい例として筆者を挙げ、他の子どもたちにもっと本を読ませようとする事

2008 年 1 级

解析:

「それ」一般都是指刚说过的“人和事”。纵观全文,「それ」前面是“先生は僕を象徴にして読書を推進しようとしている”。而 4 个选项里第 4 项有“本を読むから成績がいい例として筆者を挙げ、他の子どもたちにもっと本を読ませようとする事”。而其他选项不是文中没有提到就是离此太远毫无关系,因此正解为“4”。



由此可见，指示代词在句中可以“上下前后，纵横驰骋”。

例④ 日本語の大きな特徴には、母音^(注1)が多いということ以外に、唇をあまり使わずに、口の奥で構音する(言葉をつくる)という点もある。つまり、口元^(注2)を動かさずに、喉で言葉をつくってる感じた。だから、日本語をしゃべっていると、能面とかポーカークフェイスといわれる無表情な顔になる。外国人にとっては、これがすごく不気味^(注3)に思えるらしい。(中略)

(中野純 『日本人の鳴き声』NTT 出版による)

(注1) 母音: 声 that 口の中で通路を妨げられずに出される音。日本語では「あ、い、う、え、お」の音

(注2) 口元: 口の周辺

(注3) 不気味: なんとなく気味が悪いこと

問 「これ」とあるが、何のことか。

1. 母音が多いこと
2. 表情を変えずに話すこと
3. 喉から音が出てくること
4. 発音のしかたが違うこと

2004 年 1 级

解析:

通过对全文的阅读,指示代词“これ”指的是前面已经提到的“日本語をしゃべっていると、能面とかポーカークフェイスといわれる無表情な顔になる”这句话。选择的答案中“2 表情を変えずに話すこと”和这句话的意思最接近。而选项 1、2、3 所表达的内容并不能使人害怕和恐惧。所以正确答案是 2。

指示代词有的比较简单,有的是理解全文的关键所在。对于“指示代词”,决不能“忽略不计”。看到这些“指示代词”,有时仿佛觉得像拦在长句中的“拦路虎”,只有搬掉了它,才能贯穿全文,到达句尾。因此,对于日语中指示代词的这种特点,我们的攻略方法是:“瞻前顾后,去伪存真”。

練習問題 1:

私には、ひとをほめるクセがある。「ひと」というのは、芸術家諸君のことだ。これは、私の心がひろいからではなく、せまいからである。どうしても、ほめられない相手もあるが、少しでも美点を発見するように努力すれば、たいがいほめられる。たとえひとを傷つけても、正しい見解を主張するのが、批評の厳格さであろうが、なかなか①この原則が守れない。守れないというのは、私の心が狭い、弱いからであろう。やっつけてやろうと、攻撃だけを心がけるのも、実に狭いやり方であるが、万事ホドホドに、あたりさわりのないように(注)というのも、よくないと思う。私は時によると、かつて自分の作品を非難した仲間の作品に対して、ことさら甘い点をつけることがある。これは、自分をやっつけた相手に対しても、寛大な態度を示したい、つまり自分の心のひろさを証明したいためであ



り、結局は心のひろさではなくて、心のせまさを暴露していることになる。

(武田泰淳 「武冊泰淳全集第 16 卷」による)

(注) あたりさわりのないように: 無難に

問 ①「この原則」とは筆者のどのような態度を指すか。

1. 芸術作品の批評をする時、少しでも美点を見つけようと努力する態度。
- ② 芸術作品の価値を見極めるため、批評を行う際の厳しさを失わない態度。
3. 芸術作品の批評をする時、作品だけでなく芸術家を決して傷つけない態度。
4. 芸術作品の真の価値にかかわらず、常に厳しい批評や主張で攻撃する態度。

2005 年 1 級

練習問題 2:

消費の個人主義化は、ある意味では消費の民主化と言い換えることもできる。その結果生ずる、ものの個人所有は、所有の民主化だといえるかもしれない。また、所有の民主化は、個々人をますますばらばらの(注1)存在にしていける。(中略)ものによってしきりができるからだ。ひとつの道具を共有する(注2)ことは、好むと好まざるとにかかわらず、共有しているメンバーとの集団的なつながりが形成される。

「平等な消費」という思考は、個人の欲望にしたがった消費を許すということで、それは集団主義(全体主義)から個人主義への流れを強化していった。こうした傾向は、社会的な共同体だけではなく、家庭にまで及んだ。それは、さまざまなもののデザインによっても見ることができる。多くのものが、集団で使うことよりも個人で使えるようなデザインになっていった。小型のラジオや電話は、ポータブルになった(注3)結果、その使い方が変化した。それだけではなく、使用者を個人化したのである。

(注 1) ばらばらの: 別々でまとまりがない

(注 2) 共有する: 共同で所有する

(注 3) ポータブルになる: 持ち運びで大きさ・重さになる

問 「それ」は何を指しているか。

1. 消費という行動が個人主義化されていったこと
2. 消費により集団的なつながりが形成されること
3. 平等な消費という思考が共有を否定したこと
4. 個人の欲望に従い欲しいものが何でも買えること

2009 年 1 級





第二课 难点攻略：环环相扣的长定语

读解最重要的是破解文章中复杂的长句子，掌握了构成长句子的关键，问题也就迎刃而解了。日语长句的特点有以下几点：①长定语（长定语句中又包含“双定语句”）；②带有引用的定语长句（常以“という”和“ような”引导一个长定语）；③带有被动态的长定语（放在下一课专门讲）。

日语句子特点：定语太长，引用太多，环环相扣，层层相联。

“长定语”

日语的特征有二：

1. “实词”“虚词”相间。

如：

例① 私 は 学生 です。
实词 虚词 实词 虚词

2. 不是“です”就是“ます”结句。

如：

例② 私 は 7時 に 食堂 で パン を 食べます。
实词 虚词 实词 虚词 实词 虚词 实词 虚词 实词

句中“は、に、で、を”这些“虚词”的前面都必须接名词，而名词前往往要接定语，日语这样的句子结构决定了它的定语多于汉语。

私（实）	は	}	（形容词和形容词以及副词等实词）食べます
7時（实）	に		
食堂（实）	で		
パン（实）	を		

如果叙述得再详细一点，句子结构就比较复杂了，就成了：

“大学の一年生の私は毎日の7時に学校の食堂でおいしいパンを食べます。”

大学の一年生の私（实）	は	}	食べます。
毎日の7時（实）	に		
学校の食堂（实）	で		
おいしいパン（实）	を		

如果叙述得更加详细一点，句子结构就更复杂了，就成为了所谓的长定语句：

“去年日本へ来たばかりの大学の一年生の私は毎日の7時に隣の学校の食堂でコックができた安くておいしいパンを食べます。”

去年日本へ来たばかりの大学の一年生の私（实）	は	}	食べます。
毎日の7時（实）	に		
隣の学校の食堂（实）	で		
コックができたやすくておいしいパン（实）	を		





上面的长句包括一个定语从句和一个宾语从句,另外还有两个简单的短的定语。所以,要读懂日语文章中的长句最重要的就是把握好长定语。

请看下面的长句:

例③ “警察の調べによると、1 日午後 11 時 55 分ごろ、北名古屋市鹿田天井田の県道で、市内に住む 23 歳の女性が自転車で帰宅途中、道路に立っていた人物の横を通り過ぎようとしたところ、突然顔を殴られた。”

(「女性殴られ、現金奪われる 愛知」により)

让我们仔细地分析一下句子结构:

警察の調べによると

1 日午後 11 時 55 分ごろ

北名古屋市鹿田天井田の県道で

市内に住む 23 歳の女性が

自転車で

帰宅途中道路に立っていた人物の横を通り過ぎようとしたところ

突然顔を 殴られた。

如果我们挤出水分,去掉长定语的话,其主干句子结构为:“1 日午後 11 時 55 分ごろ、県道で女性が横を通り過ぎようとしたところ、顔を殴られた。”这样意思就一目了然。而整个句子就返璞归真,只剩下“实”“虚”相间的“骨架”了。

因此,把握住日语中的长定语能使我们练就一双“火眼金睛”,一眼就能看穿长句的本质,我们只要多读多练就能得到这双眼睛。

“双定语”或多重定语

日语中长定语句很多,一个句子里充满了长定语,有时还出现双定语,即连续两个长定语或者两个定语同时修饰一个句子。甚至还有三个以上的多重定语,可以说“定语套着定语”、“一环扣一环”。请看下面的句子:

例④ “ただでさえ小さい自然を、さらに小さくするのだから、日本人は、よほど小さいものに対する愛着が強い民族なのだろう。”(《标日中级》上)

句子主干结构:“～だから、日本人は～民族なのだろう。”

其排列结构为:

ただでさえ小さい自然をさらに小さくするのだから

よほど小さいものに対する日本人は愛着が強い } 民族なのだろう。

“ただでさえ小さい自然を、さらに小さくするのだから、日本人は、よほど小さいものに対する②愛着が強い①民族なのだろう。”

____ ①和 ____ ②分别是连续两个定语。

例⑤ “イギリス・ブラウン首相が車の中で呟いた有権者に対する失言が暴露され、本人の自宅まで謝罪に出向くという出来事がありました。”

句子主干结构:“イギリス・ブラウン首相が～失言が暴露され、～謝罪に出向くという出来事がありました。”

其排列结构为：

イギリス・ブラウン首相が車の中で呟いた
有権者に対する } 失言が暴露され

本人の自宅まで謝罪に出向く出来事がありました。”

“イギリス・ブラウン首相が車の中で呟いた①有権者に対する②失言が暴露され、本人の自宅まで謝罪に出向くという③出来事がありました。”

在本句中有 3 个长定语，其中①②都是“失言”的定语，即两个定语同时修饰一个名词。

例⑥ かれらは西洋人のダンスを見た時、肩をむき出しにした①婦人の②服装や、手を取り合い、体を接して踊る①男女の②姿態に目を見張った。(上外《日语》第六册第一课)
双定语

(他们看到西方男女跳舞的样子时，大吃一惊，女性们穿着裸露肩膀的衣服，跳舞的男女手牵着手，身体接触在一起。)

当我们遇到日语的长定语，受到多重定语的“包围”时，一定要找出句中的中心词，即被修饰的那个名词，这样就能化繁为简，事半功倍。

例⑦ お中元もお歳暮も、もともと神や仏に供える米や餅、魚などを親しい人に贈る、という宗教行事だった。(《标准日本語》中级下册 22 课 P25)

(无论是中元节还是年末，给亲近的人送米、年糕以及鱼成了一种宗教活动，而这些米、年糕以及鱼原先都是贡奉给神以及佛祖的。)

以上这句可谓定语套定语，一环扣一环，但当我们层层剥离以后，找出被修饰的名词后其浓缩结构就变成了这样：お中元もお歳暮も、～米や餅、魚などを親しい人に贈る、という宗教行事だった。再剥离后：お中元もお歳暮も、～という宗教行事だった。

例⑧ “制服のある高校に通っていた私の友人の中には、制服によって、自分の立場を自覚させる考え方に、反発を感じると言う人もいました。”(《标准日本語》中级上册 19 课 P297)

此句翻成汉语时，可分成 4 句，2 个定语从句，把中心词用 2 次。

“我的朋友中有这样的人，这些朋友在有制服的高中读书，他们当中的人对那种穿制服就要自觉地站稳自己立场的想法感到很反感。”

例⑨ ところで、中国には、七夕にまつわる① こんな② 古い③ 話があります。(《标准日本語》中级上册 P90)三重定语(不过话说回来了，中国也有七夕这样的古老传说。)

例⑩ “東北を代表する(长定语)夏祭り、秋田県の「竿燈まつり」が始まり、夏の夜空が光りの稲穂で彩られました。

沿道に詰めかけた(长定语)大勢の(双重长定语)観光客の(三重长定语)かけ声のもと、一斉に上がった(长定语)光りの(三重长定语)稲穂。今年の竿燈まつりでは 70 団体、253 本の竿燈が夏の夜空を彩ります。軽快なおはやしに合わせて、差し手は手や額、腰にさおを載せ、次々と迫力ある(三重长定语)妙技を繰り広げます。”

「秋田県の「竿燈まつり」開幕[社会]朝日新聞(2010)」

由此可见，日语中的长定语多到了如此程度，几乎是名词前面就要加上那么一个定语，否则显得这个名词会很“寂寞”。“长定语”乃至“多重定语”是日语的“常客”，我们可要学会好好招待这个“客人”啊。



带引用的长定语

所谓的“带有引用的长定语”，就是由“～ような”、“といった・との”和“～という(といった・との)”来连接前后两个句子，前者事实上构成了后者的定语。这也是日语中常见的句子。

☞ 例⑪ “財政の面だけでなく、だれが老人を扶養するかということも大きな問題である。”其句子结构为：

財政の面だけでなく、だれが老人を扶養するかという

ことも大きな問題である。

☞ 例⑫ “ある条件を与えれば、電気を通し、別の条件を与えれば、電気を通さないという性質がある。”(标日中級上 16 课)其句子结构为：

ある条件を与えれば電気を通し、別の条件を与えれば電気を通さないという

性質がある。

以上的例子可以看出这种用“という”引用的长句子，其实就是长定语的一种。这种带有引用的长定语，在日语文章中比比皆是。

☞ 例⑬ 秋篠宮ご夫妻の長女・眞子さまと二女・佳子さまが 22 日、それぞれ学習院女子高等科と女子中等科の卒業式を迎えられた。

眞子さまと佳子さまは、紀子さまと共に登校し、記者から「おめでとうございます」と声をかけられると「ありがとうございます」と①笑顔で応じられた。

卒業にあたり、眞子さまは「長いようで短い高校 3 年間でしたが、自分なりに充実した日々を過ごすことができました。気持ちを新たに、4 月から始まる大学生活を迎えたいと思います」という②感想を寄せました。また、佳子さまも「中学校ではたくさんの思い出を作ることができました。これからの高校生活も、様々なことを学びながら、楽しく元気に過ごしたいと思います」と③感想を寄せています。

(「眞子さまと佳子さま、そろってご卒業」により)

在这篇短文中可以发现：①③的引用是和谓语发生关系的，而②的引用是作名词“感想”的长定语。

☞ 例⑭ 日本の女性が公開の席で、膚をあらわにすることなどは、「男女七歳にして席を同じうせず。」という封建時代の習慣から考えられないことだった。(上外《日语》第六册第一课 P1)(日本的女性在公开场合，露出皮肤，是“男女 7 岁不同席”的封建时期的礼教所无法想象的。)引用部分做定语。

☞ 例⑮ だが、そう言われても、どうしてこれがデパートの広告なのか、と首をかしげる人がいるに違いない。(《标准日本語》中級下册第 23 课 p41)(不过，话虽说如此，肯定也会有人想不通为什么这个标语会出现在商场的广告里)引用部分为思考的内容。

☞ 例⑯ つまり、座席を独り占めしないで、お互いに譲り合って座るようにしようっていう広告なんだよ。(也就是说，这个广告是要人们彼此互相谦让，不要独占一个座位。)

(《标准日本語》中級下册 23 课 P43)引用部分做定语。

☞ 例⑰ 彼女の目を見ると嘘がつかないんです。本当のことを言わなくちゃいけないってそんな気持ちになるんです。だから彼女を好きだという気持ちにも、どうしても嘘がつ



けませんでした。僕の責任です。(日剧《甜蜜的季节》)(看见她的眼睛,我无法说谎,我不得不说出我的真心。所以我喜欢她的心情无论如何也无法说谎。都怪我。)引用部分做定语。

由此可见,引用部分在句中比较长,会干扰阅读者的视线,但是我们如果仔细分析的话,其实引用部分大多可作为定语来处理。所以希望大家遇到“长定语”以及“引用”时都不要紧张,要沉着应对。

遇到“长定语”是必然的,但我们要耐心,有信心才能把“多重定语”层层剥落。

我们的攻略原则:挤出长定语,还原句子间架结构。

練習問題 1:

私は、創作を志す若い世代に、演劇を創るということは、ラブレター(注)を書くようなものだと説明する。「俺は、おまえのことがこんなに好きなのに、おまえはどうして俺のことが分かってくれないんだ」という地点から、私たちの表現は出発する。分かり合えるのなら、ラブレターなんて書く必要はないではないか。

(注) ラブレター:自分の恋する気持ちを伝える手紙

問 「演劇を創るということは、ラブレターを書くようなものだ」とあるが、どのような意味か。

1. お互いに分かり合えることを前提にして、演劇を創り上げるべきだ。
- ② 相手に自分の主張が通じないことを前提に、演劇を創り上げるべきだ。
3. 恋人に自分の愛情を表現するのと同じ気持ちで、演劇を創り上げるべきだ。
4. 相手に気持ちを伝える技術を磨くことを目的に、演劇を創り上げるべきだ。

2002 年 1 级

練習問題 2:

人に会うときの心構えは、どんな場合でも同じだが、初対面のときは特に細かいところまで気を配る必要がある。

第一印象は決定的だ。最初の出会いのときに、どんな人であるか、だいたいの判断をされてしまい、それは固定観念となってしまふ。そのあとで、少しぐらい異なった発言をしたり、新しい行動様式が見られたとしても、第一印象の内容のそれぞれに無理やり(注1)当てはめられてしまふ。

すなわち、第一印象によって形成された先入観(注2)ないしは偏見という「色眼鏡」ですべてが見られてしまふのだ。その色眼鏡を外させたり、異なった色のものに変えさせたりするのは、至難(注3)の業である。したがって、自分をもっとよく見せる色眼鏡を、相手に最初からかけてもらうように努める必要がある。

(山暗武也 「20 代からの気のきいた「マナー」がわかる本」三笠書房による)

(注 1) 無理やり:無理に

(注 2) 先入観:初めに知ったことによって作られた観念や見解

(注 3) 至難の業:とても難しいこと



問 「その色眼鏡を外させたり、異なった色のものに変えさせたりする」とあるが、これはどういう意味か。

1. 他人に気を配りすぎている人に、自分の本当の気持ちを表させること
2. 自分とは異なる発話や行動をする人を、自分と同じ考え方に変えさせること
- ③ 最初の印象によってできたその人についての判断を、後から変えさせること
4. 出会いの時、印象をよくしようとして飾っている人の本当の姿を出させること

2003 年 1 級

練習問題 3:

人称代名詞われ(私)の複数はわれわれ(私たち)だと通常考えられている。多くの場合それでいいのだし、実際にもそういうふうに使われている。けれども、われわれがいつでも必ずわれの複数といえるかとなると、そうとばかりはいえないだろう。自分を含んだ複数の人間をひとまとめにしてわれわれというとき、ことわるまでもなくそのわれわれのなかで自分と他の人々とは、なんらかの意味で(注1)親和的な間柄にある。たとえばグループ、学校、会社、党派、家、国など、性格や規模こそちがえ、一つの同じ集団に属していて、心の、あるいは利害の上で互いに結びついていることが前提になっているわけだ。しかしこの場合、自分と他の人々とは、それぞれの集団の外部に対しては同一の集団に属するものとして結びつきをもっているにしても、それぞれの集団内部を考えてみれば、①自分と他の人々との間柄が対立を含んでいないとはいえない。自分によって近い集団から遠い集団へ、自分を含む小さな集団から大きな集団へという方向で、一般的には集団内部の自他の対立は大きい、たとえ小さな身近な集団のなかでも自他の対立はなくなるわけではない。それどころか、ときには近親憎悪と呼ばれるような、近い間柄であることがかえって激しい憎しみを相互に(注2)惹き起こすことさえあるのだ。このようなわけで、集団内部の自他の対立を問題にし出すと、われわれということは簡単にはいえなくなる。もっといえば、ありえないことになる。つまり、(③)、そこにあるのはつねにただ自己と他者たちだ、ということになるのである。

(中村雄二郎 「哲学の現在」による)

(注1) 親和的な一: 互いに親しい

(注2) 惹き起こす: 生じさせる

問 「自分と他の人々との間柄が対立を含んでいないとはいえない」という筆者の考えから言えることはどれか。

1. 他の集団に属する人間とは、親和的な間柄になることは難しい。
- ~~2. 同じ利害で結びついていない人間同士には、対立関係が生じやすい。~~
3. 身近な関係以外の人間には、激しい憎しみを持たないとはいえない。
- ④ 同一の集団にいる身近な人間との間でも、親和的になるとは限らない。

2007 年 1 級